



No.188

2021年 4月15日
 発行者：治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟

愛知県本部
 461-0004 名古屋市中区葵1-22-26
 愛知民主会館内
 Tel: 090-9175-9598
 Fax: 0564-89-0852
 メール:
 wakayamaharuji0564@yahoo.co.jp

私たちの運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
 - 一、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
 - 一、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と補償をおこなうこと

東海ブロック 会長・事務局長 交流会開催

3月31日、静岡市で東海4県（愛知・静岡・岐阜・三重）の会長・事務局長交流会が開催されました。中央から増本会長も参加され、4月1日から始まる「コロナ禍に打ち勝ち衆議院総選挙等勝利のための同盟躍進期間」と5月12日に予定されている「国会請願」に東海各県が、どのように取り組むかを話し合いました。

最初に静岡県本部の江川会長からの訴えで、この間亡くなられた仲間の同盟員

に黙祷を捧げました。その後、現在の政治情勢について国賠運動について各県から意見が出されました。増本会長からは、各県・各支部において二極化がみられる。情勢に立ち向かって前進を続ける県・支部がある一方、じりじりと後退を続ける県・支部もある。秋までに行われる衆議院選挙において野党連合政権を樹立し、治安維持法犠牲者たちが目指した両性の平等にもとづく国民主権の政治



増本一彦会長

■県同盟の現勢 4/1

804名

【入会者】なし

【退会者】名南1名・
 稲沢2名・尾北3名・
 知多5名・西三2名
 合計13名

遥かな想い語り継ぐ責任 弾圧被害者、小尾夫妻のこと

(最終回)

夫妻は「同盟」の地方支部結成に腐心しますが、実現は難航し、1930年以後何度も結成予定が公表されながら延期を繰り返しました。全国の他の地域でも「特高がつきまとう、既成婦人団体との人的関係、長幼の序の難しさ、官製婦人団体組織で活動困難」などの事情で難航を余儀なくされましたが、愛知では事情が不明で、1932年夏に「名古屋支部発会式は、幹部病気の為無期延期」とされたままでした。

「陣痛微弱」(金子しげり)の愛知でやっと支部が日の目を見たのは1935

年夏でしたが、この年の「全日本普選大会」は「女性性を無視したる国家政策を断固として退ける」と決議しています。伊藤さんはこの時期を、国が戦争遂行、国民動員のための母性保護と選挙粛正に女性を重視する一方で女性選挙権に背を向けたが、市川は選挙粛正運動自体は望むところで「全力で協力すべき」と考え、「志は婦選、反戦にありながら「同盟」が、やがて国民総動員運動にはまり込む」ことになった転機と分析しています。

こうして同盟が国策に乗った時、愛知支部が現実化したのでした。7月24日、名

古屋市主催の婦人肅正演説会、翌25日には名古屋新聞母の会の選挙肅正座談会が行われ、その夜、来名していた金子しげりの宿に小尾ふさはじめとする面々が集まって8月9日の支部設立を決めました。8月25、26日には全名古屋の婦人団体が一丸となって10万枚のビラを配ったとあります。市川らの「同盟」にとつては「やむをえない」肅正運動が、名古屋では最初からの報告運動だったと、伊藤さんは述べています。

もう一つ作家の岡戸武平氏が『毎日新聞』(年9月13日夕刊の一文内に「いまは故人となった「医海」という雑誌を発行していた小尾菊雄」と交友をうかがわせる記述をしていることが見つかったのみです。

※お詫び
西田一廣

不屈県版製作上のミスで3月号に掲載できませんでした。お詫び申し上げます。

家畜がくれた死の贈り物

(最終回)

アメリカのトランプ元大統領がアメリカファーストを主張し国連の各種機関から手を引いた間隙について、

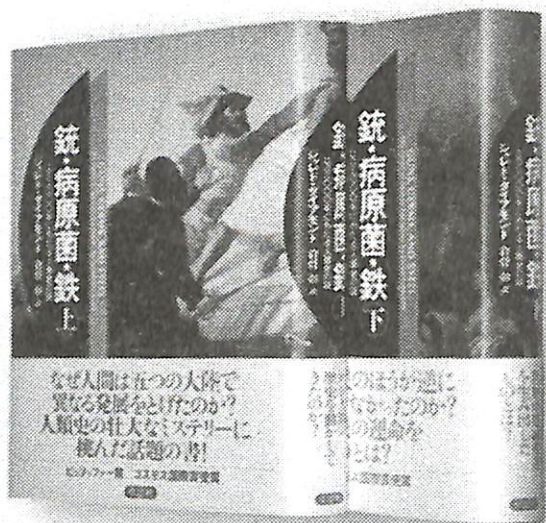
情報を管理し、調査団を自分たちのコントロール下に置き、ウイルスはアメリカから持ち込まれたものだ主張しています。

中国の政府は国連のいろいろな機関に影響をのばしました。WHO(世界保健機関)もその一つであり、エチオピア人のテドロス事務局長は、中国政府に対して気を使い、WHOとしての対応は後手に回ってしまい、世界的感染拡大に有効な手をうつことができませんでした。

また今回のコロナで明らかになったことの一つに、日本はワクチンも食糧も輸入頼みの国になってしまっているという事です。日本の英知を結集して安全で安価なワクチンを開発・製造することで世界に貢献する。その為には学会会議に干渉したり、史上最大の軍事費を予算計上するのではなく、教育・科学・文化を重視する文化国家・平和国家の道を進むべきです。

る時、ときとしてコピーミスが偶然おきることがあります。突然変異といわれる進化のしくみです。偶然、突然変異した形質のうち環境に適応した形質をもったものが数をふやしていく。簡単に言えば、生物進化とは偶然の変化の長年の積み

しかし近年の遺伝子研究の進歩は、偶然の突然変異ではなく遺伝子工学による人為的な改変を可能とするところまできました。数年前、中国の研究者が世界初の「遺伝子操作ベビー」の誕生に成功したとの報道があり、物議をかもしることが



重ねの結果であり、そのことが現在の多様な世界を形作っているといえます。コロナウイルスもコピーミスを頻繁におこし、そのなかから環境に適応したウイルスが数を増していく。かつての品種改良は、こうした突然変異を利用して人間に都合の良いものを生み出してきました。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

東海ブロック各県連の10年間の大会現勢

若山晴史

(了)

ありました。
ホモサピエンス（賢い人）である現生人類は、コロナとの闘いにおいて、やがて勝利することは明らかですが、コロナがもたらした更なる格差と貧困には、どう立ち向かうのでしょうか。今のままの資本主義システムでは持続可能な社会を展望することはできません。コロナ危機のさ中にある私たちにとって、この危機は、新たな社会の姿と、そこへ至る道筋を考えるチャンスでもあります。

	愛知	静岡	岐阜	三重	合計
2001年 第30回大会	318	182	381	100	981
2003年 第31回大会	323	172	393	99	987
2005年 第32回大会	350	190	453	100	1093
2007年 第33回大会	410	178	500	102	1190
2009年 第34回大会	457	180	507	107	1251
2011年 第35回大会	514	153	502	129	1298
2013年 第36回大会	634	154	501	119	1408
2015年 第37回大会	667	170	468	119	1424
2017年 第38回大会	712	187	447	113	1459
2019年 第39回大会	798	315	438	106	1657
2021年 4月日現在	804	423	412	96	1735